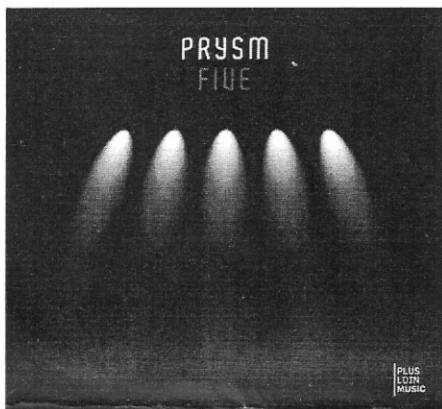


Five / Prysm



惜しまれながら活動を休止したフレンチ・トリオが、約10年ぶりに再始動を宣言した奇跡のリユニオン作

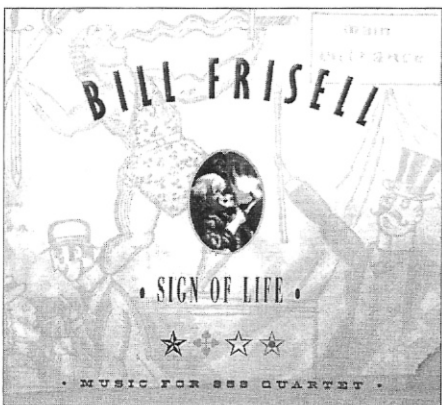
94年に結成するや、独自のトリオ・コンセプトとスタイリッシュなアートワークに名門ブルーノートのブランド性が加わって、トリオ・ウォッチャーを虜にしたプリズム。4枚を残して2001年にピリオドを打った彼らが、リヨンのオペラ座で再結成。この間、個人活動で電気鍵盤での成果を挙げたピエールが、新生プリズムにもそれを反映させて進化形をアピール。ゲストのジュリアーニの熱演が興奮を呼び、トリオと一体となって燃え上がる。完全復活を告げる力作だ。(杉田) ①

■①Reflexion ②Secret World ③Temps Dense ④X-Ray Intro ⑤X-Ray ⑥The Stone Cutter Intro ⑦The Stone Cutter ⑧Un Des Sens

■Prysm [Pierre De Bethmann (p,el-p) Christophe Wallemme (b) Benjamin Henocq (ds)] Rosario Giuliani (①②⑧:as) Manu Codjia (⑤⑦:g) 2009.6.5,6,Lyon

■Plus Loin Music PL4540

Sign Of Life / Bill Frisell



「ライブ・ダウンロード・シリーズ」にもラインアップされたフリゼールの弦楽四重奏団、5年ぶりの録音

ドイツの現代美術家ゲルハルト・リヒターの作品に触発されて制作した『Richter 858』(2002年)が出発点で、本作も858カルテットを名乗る。自然豊かなバーモントでフリゼールが約1ヶ月間作曲に没頭。17の小品はこの編成の室内楽的アンサンブルを熟慮した、作曲センスが大きな聴きどころ。もちろん30年以上の付き合いがあるロバーツや、様々なプロジェクトで共演を重ねてきたシェインマン、カントのミュージシャンシップが可能にした、心温まる世界が味わえる。(杉田) ⑩

■①It's A Long Story (1) ②Old Times ③Sign Of Life ④Friend Of Mine (1) ⑤Wonderland ⑥It's A Long Story (2) ⑦Mother Daughter ⑧Youngster ⑨Recollection ⑩Suitcase In My Hand ⑪Sixty Four ⑫Friend Of Mine (2) ⑬Painter ⑭Teacher ⑮All The People, All The Time ⑯Village ⑰As It Should Be

■Bill Frisell (g) Jenny Scheinman (vin) Eyvind Kang (vla) Hank Roberts (cello) 2010,Berkeley

■Savoy Jazz SVY17818

The Big Picture / Jacob Karlzon



スウェーデンの実力派ピアニストが時代に対応する新たなコンセプトを打ち出したトリオ・アルバム

96年以降メンバー交代もありながらカールソンが運営してきたトリオが、ここに来て新展開。北欧最北での体験を作曲モチーフに、オルガンや電気鍵盤を導入した音作りは本人曰く「クラブ的」で、メタル音楽好きの反映というのもユニーク。ただしサウンドの中心を占めるのはアコースティック・ピアノであり、息をもつかせぬ速弾にカールソンの底力を再認識させられる。80年代ポップス③⑤のカヴァーに共感。欧米のピアノ・トリオ・シーンを見据えた自己表現が頼もしい。(杉田) ③

■①The Big Picture ②Bakersfield Revisited ③Maniac ④On The Horizon ⑤In God's Country ⑥Newbie ⑦Ma Salama ⑧Utopian Folksong ⑨At The End Of The Day

■Jacob Karlzon (p,el-p,org,key,prog) Hans Andersson (b) Jonas Holgersson (ds,per) ©⑩2011, Gothenburg

■Stunt Records STUCD 11032